

種 粉 脱 水 機

取扱説明書

DS-J6

も く じ

ご使用になる前に

- はじめに 1
- 安全のため必ずお守りください 2
- 各部の名称とはたらき 5
- 使用前の準備 6

ご使用にあたって

- 作業のしかた 7

知っておきたいこと

- メンテナンス 10
- 長期格納のしかた 10
- 不調の原因と処置 11

そ の 他

- 仕様 11
- 消耗部品 11
- 安全確認一覧表 12

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書には、本機の正しい安全な使いかた、保守点検などについて記載してあります。

本機を安全に正しくお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みになって、本機の構造などをじゅうぶんにご理解ください。

なお、仕様などの変更により、お求めいただいた製品と、本書の内容やイラストの一部が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

お読みになった後、必ず大切に保管し、わからないことがあったときは、いつでも取出しご利用できるようにしておいてください。

■ 危険防止

この取扱説明書では、必ず守っていただきたい重要な注意事項について、次のように表示しています。

危険：注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。

警告：注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。

重要：注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

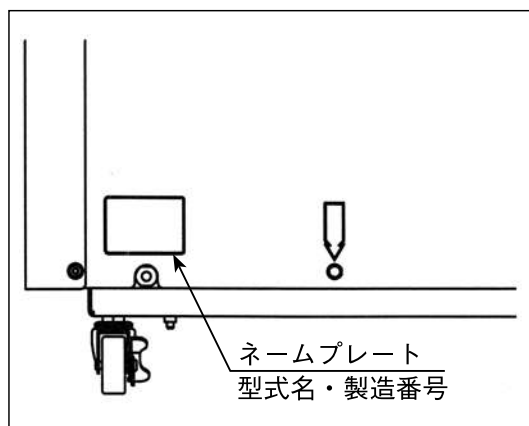
補足：その他、使用上役立つ補足説明を示します。

■ ご不明な点や不具合がありましたら

本書や本機についてご不明な点や、不具合がありましたら、無理に使用せず、ご購入店または弊社（本書のうら表紙に記載）までお問い合わせください。

軽い故障でも重大事故につながる場合がありますので、早期発見に心がけ、早めに整備してください。

故障や不具合が発生したときは、型式名と製造番号を必ずご連絡ください。



警告

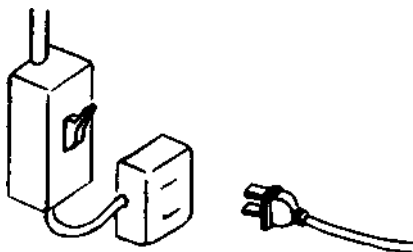
- 本機は水稲用種籾の脱水機として設計されています。この他の用途には使用できません。
- 改造して使用することは、しないでください。

⚠ 安全のため必ずお守りください

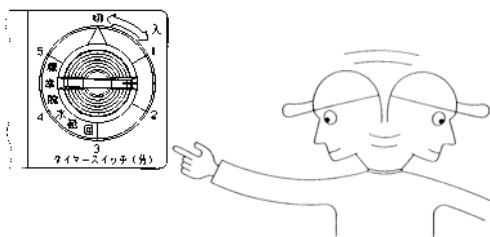
使用前にこの取扱説明書をよく読み、理解する

機械を他人に貸す場合は取扱い方法をよく説明し、あらかじめ取扱説明書をよく読ませる

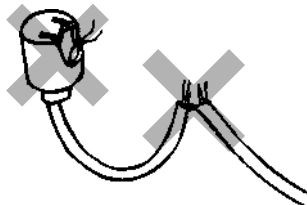
漏電ブレーカの設置されたコンセント使用（感電防止）



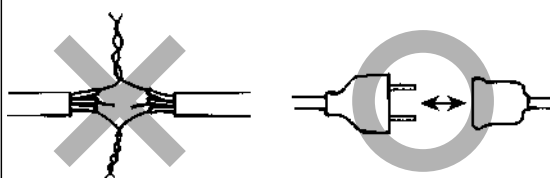
周囲の安全を確認してからスイッチ入



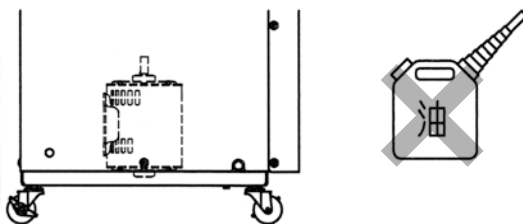
コードやプラグがいたんだらすぐに交換（感電・火災防止）



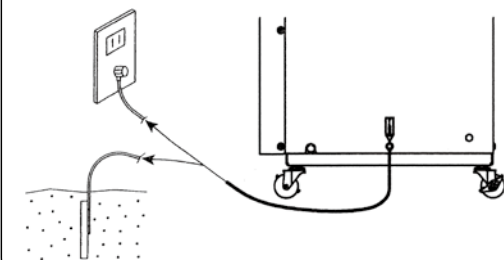
電線コードの延長はオス・メスの防水コネクタで接続
（感電・火災防止）



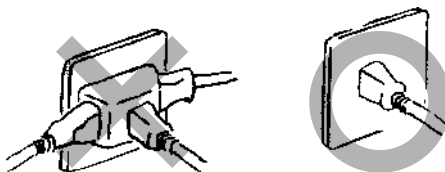
モータの近くには燃えやすいものを置かない（火災防止）



アースコードは必ず接続する
（感電防止）

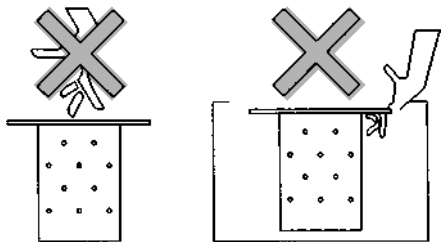


タコ足配線はしない

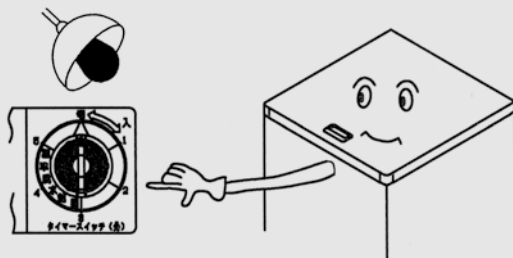


⚠ 安全のため必ずお守りください

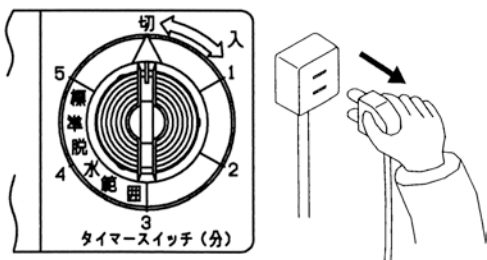
回転中は脱水槽・脱水槽周辺に絶対手を入れない



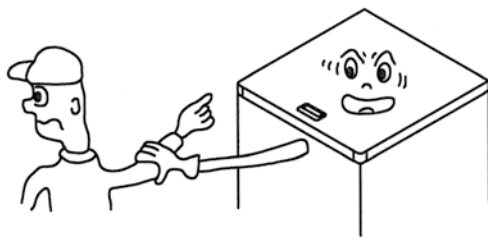
停電やブレーキ作動時はすぐにスイッチを切る



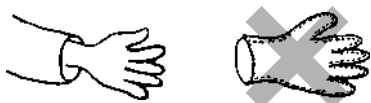
異常が発生した場合はすぐにスイッチを切りプラグを抜く



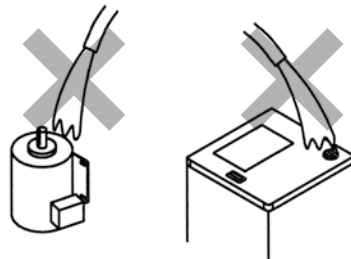
機械から離れるときは必ずスイッチを切る



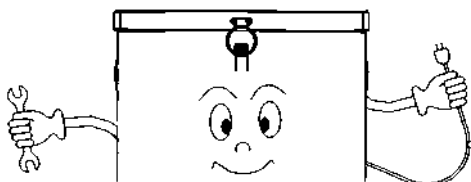
作業するときは手袋は着用しない
(巻込み防止)



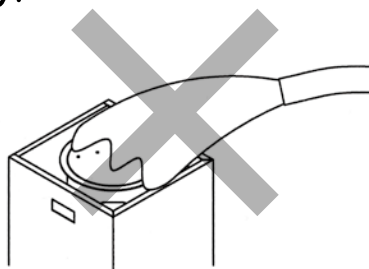
モータや電装部品には水をかけない



点検・調整はスイッチを切り、プラグを抜いてから



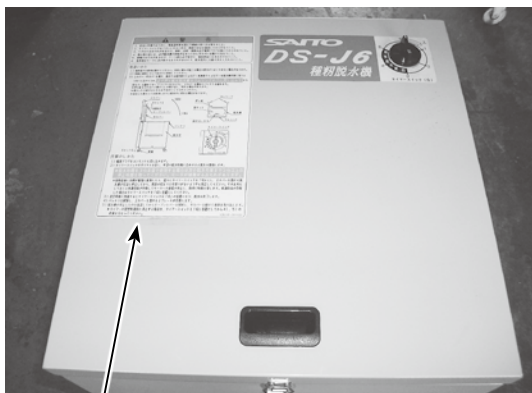
脱水室内に一度に大量の水を入れない



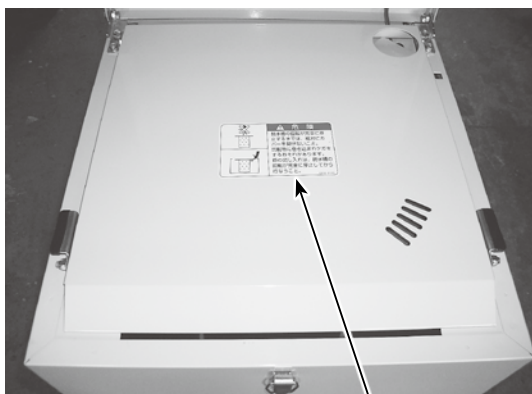
⚠️ 安全のため必ずお守りください

使用前に安全ラベルをよく読む

- 種粉脱水機には次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって、理解した上で作業してください。



①



②

① 13113-3112-1

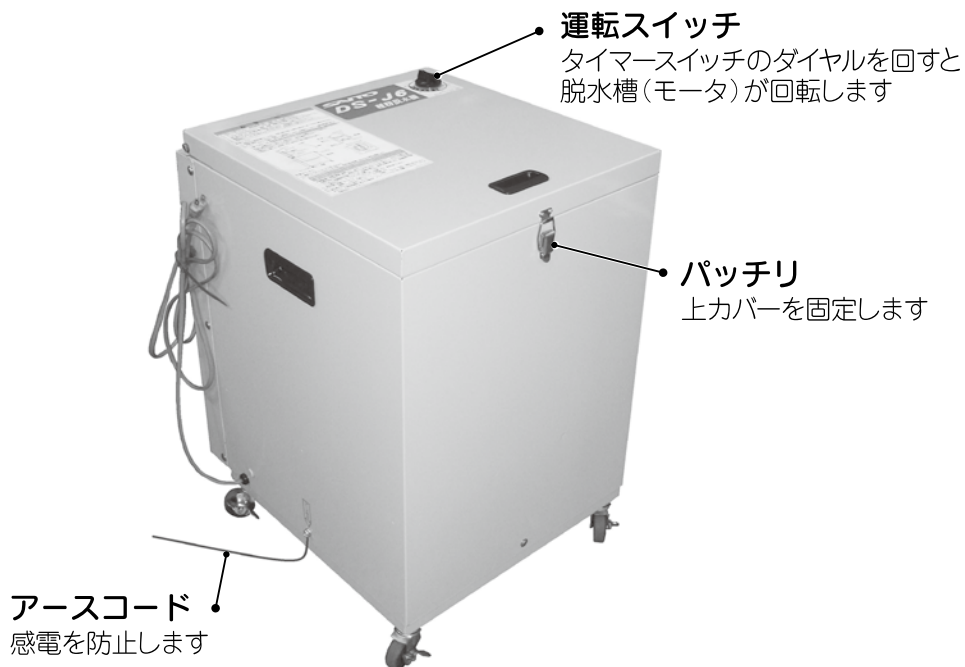
警 告	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全に作業するために、取扱説明書を読んで機械の使い方を覚えること。 2. タイマースイッチを「入」にするときは、周囲の安全を確認してから行うこと。 3. ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整は必ず電源プラグを抜いてから行うこと。 4. 僅芽ネットの取出しは、必ず脱水槽の回転が止まってから中カバーを開けて行うこと。 5. 感電のおそれがあるので、アース線を必ず取付け、電線部品には水をかけないこと。 6. モータに水がかかるおそれがあるので、脱水室内に大量の水を入れないこと。 	
取扱いかた <ol style="list-style-type: none"> 1) 傾斜地での使用は避けてください。本体に揺れが起こる場合や排水がうまくできない場合があります。 2) 天輪は確実にロックを掛けて使用してください。 3) 上カバー・中カバーを開け、脱水する僅芽粉5kg以下(乾燥粉5kg以下)を脱水槽内周に沿うように均一に広げて入れ、必ず押え板を脱水槽のゴムリングの下に押し込んでから中カバーを閉めてオープンレバーをロックし、上カバーを閉めてパッチリを留めます。 ※押え板を入れないと僅芽ネットが飛び出し、切れる場合があります。 ※網袋の結び口とひもは下向きに入れてください。 ※変化した僅芽粉ネットを使用しますと脱水中に切れる場合があります。 	
作業のしかた <ol style="list-style-type: none"> 1) 電源プラグをコンセントに差込みます。 2) タイマースイッチのダイヤルを回し、希望の脱水時間に合わせると脱水を開始します。 ※脱水時間を3分未満で使用する場合は次の脱水作業まで3分以上の停止時間を取ってください。モータが損傷するおそれがあります。 ※始動直後に本機が確音に震動したら、直ちにタイマースイッチを「切」にし、上カバーを開けて脱水槽が完全に停止してから、僅芽粉の取まりを片寄りが無いよう平らに修正してください。そのままにしておくとは保護回路が作動してモータへの過電が停止し、復帰に時間を要します。保護回路が作動した場合はタイマースイッチを「切」位置にしてください。 3) 設定時間に到達するとタイマースイッチは「切」の位置になり、脱水は終了します。 4) パッチリを解除し、上カバーを開けるとプレーキが作動します。 5) 脱水槽が停止したのを確認してからオープンレバーを解除し、中カバーを開けて僅芽ネットを取出します。 ※タイマーの設定時間前に停止する場合は、タイマースイッチを「切」位置にしてから4)、5)の作業を行ってください。 	

② 13112-3114-1

	危 険
	脱水槽の回転が完全に停止するまでは、絶対にカバーを開けないこと。 回転物に巻き込まれケガをするおそれがあります。 粉の出し入れは、脱水槽の回転が完全に停止してから行うこと。
13112-31141	

- ラベルはいつもきれいにし、ハッキリと見えるようにしてください。
- シンナーやアセトンなどの溶剤ではふかないでください。文字や絵が消えることがあります。
- ラベルが損傷・破損した場合は新しいラベルと交換してください。
- 安全ラベルが貼付けされている部品を交換したときは、必ず新しい安全ラベルも取寄せ、取外した部品と同じ場所に貼ってください。

各部の名称とはたらき



使用前の準備

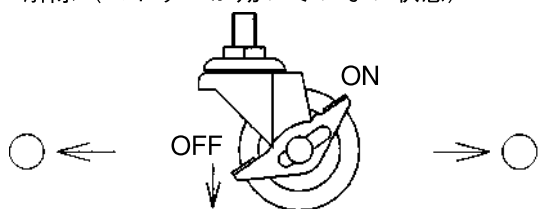
⚠ 警告

- 準備作業は、必ず電源コードの差込みプラグを抜いた状態で行なってください。
- 外したカバーは、もと通りに組付け、ボルトは確実に締付けてください。

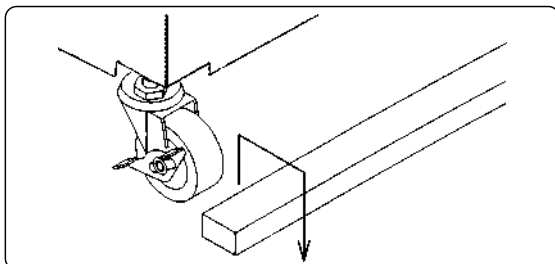
1. 機械の移動と設置

- ① 機械の移動は、自在キャスターのストoppaを解除（OFF側を押し込む）して移動させてください。

解除（ストoppaが効いていない状態）

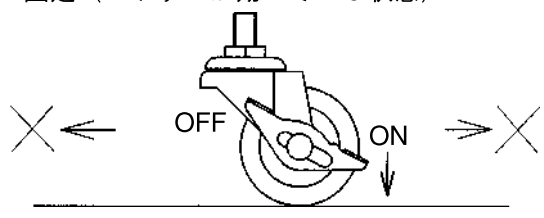


- ② 段差のあるところでは、必ず機体を持ち上げて、段差を回避してから移動させてください。



- ③ 機械を設置させる場合は、できるだけ平坦なところに設置し、自在キャスターのストoppaを効かせて（ON側を押し込む）、しっかりと固定させてください。

固定（ストoppaが効いている状態）



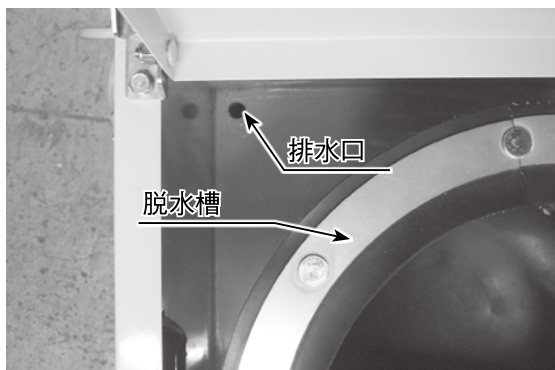
重要

機械の移動時に、自在キャスターのストoppaを効かせて移動させたり、段差の大きい所で無理に衝突させたりすると破損する場合があります。

2. 排水口の点検・清掃

⚠ 警告

- 排水口にごみ・異物等の詰まりがないか点検してください。異常がある場合は、ごみ等を取除き、詰まりのない状態で使用してください。詰まったまま使用すると、モータに水がかかるおそれがあります。

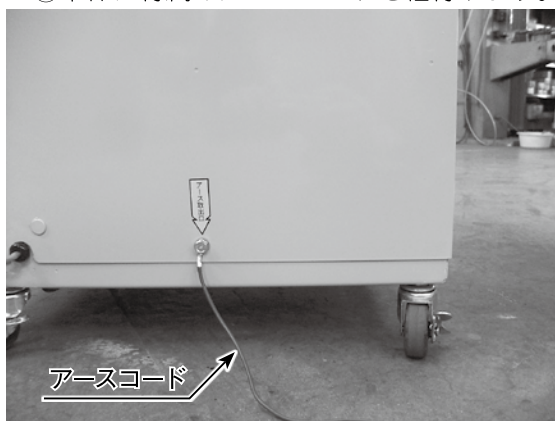


3. アースの接続

⚠ 警告

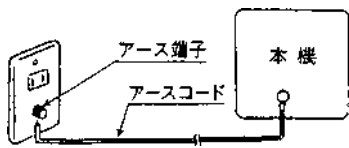
- アースコードは必ず接続してください。アースを接続しないと感電の危険があります。
- アースは、ガス管や水道管、電話や避雷針のアース線には絶対に接続しないでください。
- アースコードを延長して使用する場合は、必ず1.25mm²以上のコードを使用してください。

- ① 本体に付属のアースコードを組付けます。

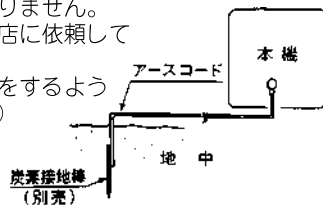


②アースコードの先端は、次のいずれかの方法で必ずアースしてください。

- コンセントにアース端子がついている場合はアース端子に接続してください。



- コンセントにアース端子がない場合は炭素接地棒を使用してください。
注) 1. 本機に炭素接地棒は含まれておりません。
この場合アース工事は電気工事店に依頼してください。
(電気工事士の有資格者が工事をするように法令で定められています。)
2. アース工事は有料です。
3. 炭素接地棒は必ず地中に埋設してください。



4. 電源盤コンセントの確認

⚠ 警告

- 電源盤コンセントは漏電ブレーカ付きのコンセントを使用してください。
- 電源は必ず交流100Vを使用し、直流100V（発電機など）での使用はしないでください。
- 電源コードを延長して使用する場合は、必ず 0.75mm^2 以上のコードを使用し、接続はオス・メスプラグを使用してください。また、タコ足配線はしないでください。
- 電源やモータの周囲に燃えやすいものを置かないでください。
 0.75mm^2 未満のコードを使用したり、コード同士を直接よって接続しますと、コード及び接続部が過熱し、ショートや火災の危険があります。

重要

- 電源盤のブレーカ容量は10A以上必要です。
- 延長コード（コードリールなど）を使用したり、電源コードを延長して使用すると電圧が極端に低下し、モータが容量不足になることがあります。延長コードの使用や電源コードの延長は極力しないでください。

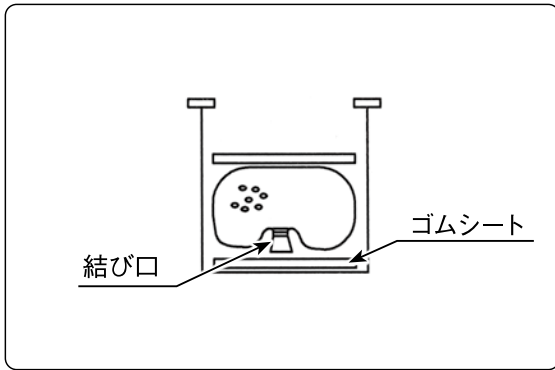
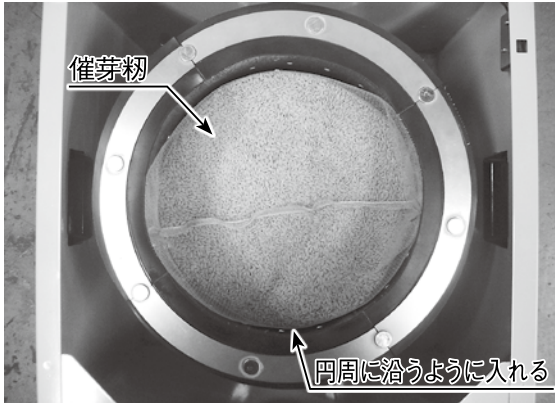
作業のしかた

⚠ 警告

- 回転している脱水槽には、絶対に手を入れないこと。
- 運転中は周囲の人を近づけないでください。特にお子さんには注意してください。
- 運転中に異常が発生した場合は、すぐにスイッチを切り、上カバーを開けてブレーキをかけ停止させてください。その後電源コードの差込みプラグを抜いてから点検してください。
- 運転中に停電または電源ブレーカが作動した場合は、すぐにスイッチを切り、上カバーを開けてブレーキをかけ停止させてください。
- 機械から離れるときは必ずスイッチを切り、電源コードの差込みプラグを抜いてください。
- スイッチを入れるときは、補助者や周囲の人に合図をして、安全をじゅうぶん確認してください。
- カバーを外したままでは絶対にスイッチを入れないでください。
- 暗いところでは作業しないでください。スイッチなどの位置がわからず危険です。
- 電源やモータの周囲に燃えやすいものを置かないでください。

1. 催芽粉ネットの投入

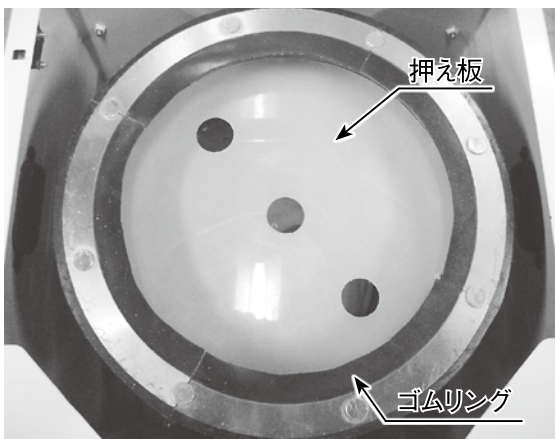
- ①上カバー、中カバーを開け脱水槽の底にゴムシートがきちんと入っているか確認します。もし、ずれていたら直してください。
- ②催芽粉を脱水槽円周に沿うように均一に広げて入れます。(催芽粉で6kg以下です)
催芽粉ネットは結び口を下にして入れます。



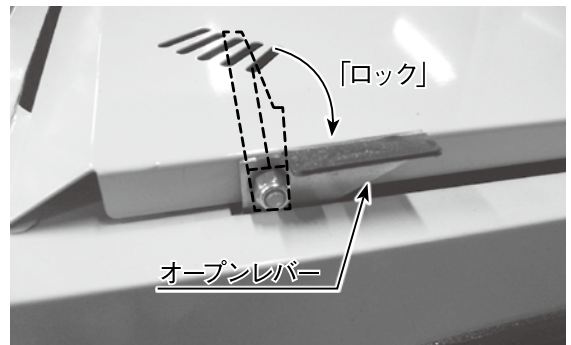
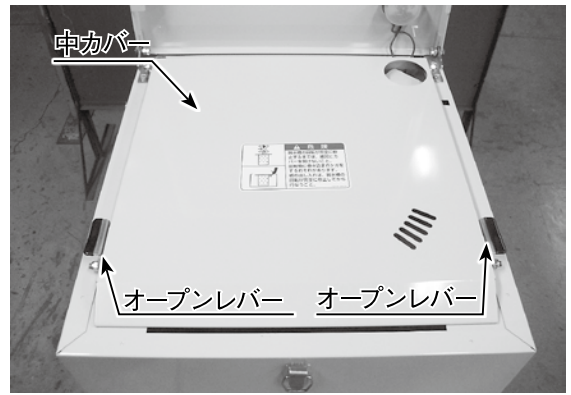
重要

- 催芽粉を片寄せて入ると機体が極端に振動し、機械が損傷する場合があります。

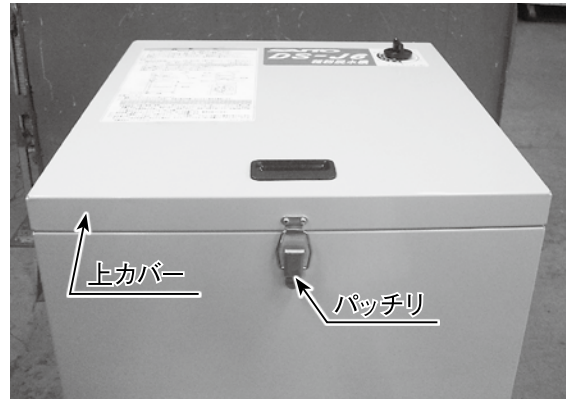
- ③ 押え板を催芽粉ネットの上に置きます。この時、押え板の外周は必ずゴムリングの下になるよう押し込んでください。



- ④ 中カバーを閉じ、オープンレバーでロックします。



- ⑤ 上カバーを閉じ、パッチリで固定します。



重要

- 押え板は必ずセットしてください。押え板がないとネットが切れ、粉が飛散します。また機械の損傷につながります。

補足

- 劣化した催芽粉ネットを使用すると脱水中切れる場合があります。作業前にじゅうぶん確認してください。

2. 脱水作業

- ①差込みプラグを電源コンセントに差込みます。
- ②タイマースイッチのダイヤルを回して、希望の脱水時間に合わせると脱水槽が回転して脱水を開始します。



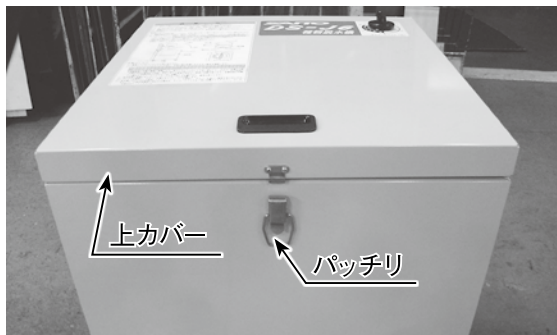
警告

- タイマースイッチを入れるときは、補助者や周囲の人に合図をして、安全をじゅうぶん確認してください。

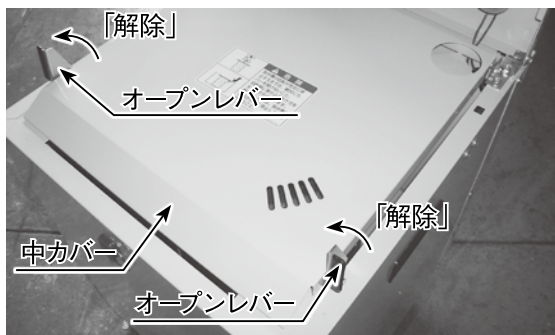
重要

- 始動直後機体が極端に振動したら、直ちにタイマースイッチのダイヤルを「切」位置にして上カバーを開け、脱水槽が完全に停止してから催芽粉の収まりを片寄りがないように平らに修正してください。そのままにしておくと保護回路が作動してモータへの通電が停止し復帰に時間を要します。保護回路が作動した場合はタイマースイッチのダイヤルを「切」位置にしてください。
- 3分未満で脱水作業を行なう場合は、次の脱水作業まで3分以上の停止時間を取ってください。
モータが、焼損するおそれがあります。

- ③設定時間に達するとタイマースイッチが「切」にもどり、モータへの通電を停止します。
- ④パッチリを解除し、上カバーを開けるとブレーキが作動します。



- ⑤脱水槽の回転が停止したのを確認してから、オープンレバーのロックを解除し、中カバーを開けます。



- ⑥押え板を取り、催芽粉ネットを取出します。

危険

- タイマースイッチが「切」になっても脱水槽は惰性で回転し続けます。上カバーを開けてブレーキを作動させ、脱水槽が完全に停止するまでは中カバーを絶対に開けないでください。
- 回転中の脱水槽には絶対に手を触れないでください。

補足

- タイマーの設定時間前に停止する場合は、タイマースイッチのダイヤルを「切」位置にしてから④⑤⑥の作業を行なってください。

メンテナンス

⚠ 警告

- 点検は必ずスイッチを切り、電源コードの差込みプラグを抜いてから行なってください。
- 外したカバーはもと通りに組付け、ボルトは確実に締付けてください。

■日常点検

作業前を上カバー、中カバーを開け、異物などが入っていないか確認し、もしあれば取除いてください。

■プラグ、コードの点検

差込みプラグやコード類が損傷していないか点検してください。

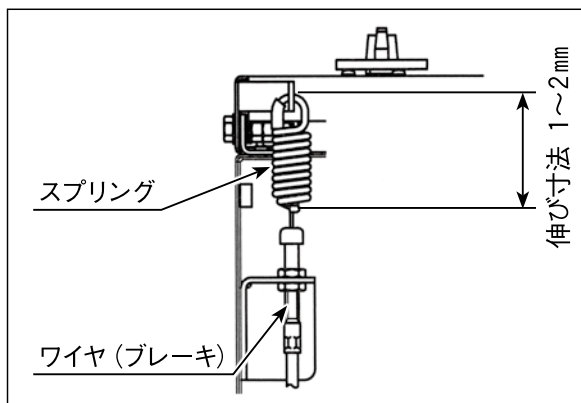
⚠ 警告

- プラグやコードが損傷した場合は、すぐに交換してください。そのまま使用しますと感電、漏電、火災の危険があります。

■ワイヤ（ブレーキ）の調整

上カバーを開けたときブレーキの効きが悪い場合、また常時ブレーキが効いている場合はワイヤ（ブレーキ）を調整してください。

- 上カバーをパッチリで固定したときのスプリングの伸び寸法が1～2mmとなるようにワイヤ（ブレーキ）を調整します。



重要

- ワイヤ（ブレーキ）が調整不良の状態で使用を続けると、機械の故障につながります。

長期格納のしかた

⚠ 警告

- 電装部品には水をかけないでください。感電や漏電の危険があります。
- 脱水室内に大量の水を入れるとモータに水がかかるおそれがあるので、脱水室内の水洗いは少量の水（目安：毎秒90cc以下の水量）で行なってください。また、脱水室内を水洗いした後はじゅうぶんな時間を空け、機械が完全に乾いてから作業を行なってください。

シーズンが終了して翌年まで長期間使用しないときは、格納する前に点検、整備を念入りに行なってください。

- ①各部に付着したごみなどの汚れは、少量の水で洗い落としその後乾いた布でふき取り、じゅうぶんに乾燥させてください。
- ②機械は、雨風のあたらない、ごみのかからない場所に保管してください。もし、戸外に置く場合は雨水がかからないようにシートでおおってください。特に電装部には絶対に水が入らないようにしてください。保管中は、特にお子さんが近づかないように注意してください。

重要

- ワイヤが錆びつくとブレーキの作動が悪くなります。
- もみなどが残っているとネズミの巣となり、コードなどがかじられて次の年の作業に支障をきたすことがありますから、きれいに除去してください。

不調の原因と処置

警告

●点検・調整をするときは、必ずスイッチを切り、電源コードを抜いてから行なってください。

現象	原因	処置	参照ページ
モータが回らない	単相100Vの電源がきていない	電源、差込みプラグ、コード類の損傷確認および点検(注1)	
	上カバーを固定していない	確実に固定する	P 8
	リミットスイッチの故障	交換(注2)	
	タイマースイッチが入っていない	タイマースイッチを回す	P 9
	タイマースイッチの故障	交換(注2)	
	配線の不具合	交換(注2)	
	ブレーキが作用している	ワイヤ(ブレーキ)の調整	P 10
モータが止まる	正規電圧がきていない	コードリールを使用している場合はコードリールの使用をやめる	
	過負荷保護機能が作動した(サーマルリレーが作動)	原因を取除く(注3)	
脱水が不じゅうぶん	脱水時間が短い	脱水時間を長くする	P 9
機体が極端に揺れる	催芽粉の入れ方が片寄っている	脱水槽円周に沿うように広げて入れる	P 8
	キャスターを固定していない	キャスターのストoppaをかける	P 6
	傾斜地で使用している	できるだけ平坦なところに設置する	
脱水槽が止まらない	ブレーキが作用していない	ワイヤ(ブレーキ)の調整	P 10

注1. ネズミなどの害によりコードが断線、短絡、漏電する場合がありますので、作業前に各コードをじゅうぶんに点検してください。

注2. 購入先に連絡してください。

注3. 異常負荷がかかるとモータ保護のため、自動的にモータが停止します。原因として異物の混入、電圧低下、催芽粉の片寄った状態での脱水作業によるモータ負荷、配線などの不具合が考えられます。過負荷保護機能が作動してモータが停止した場合は、タイマースイッチを「切」にしてください。じゅうぶん点検し、原因を取除いた上で再度タイマースイッチを「入」にしてください。

仕様

名 称	種籾脱水機	
型 式	D S - J6	
全 長 (mm)	500	
全 幅 (mm)	450	
全 高 (mm)	670	
重 量 (kg)	40	
使 用 電 源 (V)	単相 100	
最 大 投 入 量 (kg)	6 (催芽粉)	
脱 水 時 間 (分)	3 ~ 5	

消耗部品

品 番	品 名	備 考
13112-1132-1	ゴム (ドラム)	
13112-1134-1	プレート (オサエ)	
13112-1135-1	ゴム (シタ)	
13112-1144-2	スイッチ (マイクロ)	
L 6421-1163-1	ブレーキ (バンド)	

安全説明確認カード

説明者（販売店・農協）控

年 月 日

私は説明員から安全についての説明をききました。

ご使用者住所

氏名



販売店・農協名

担当者

型 式

製造番号

【基本事項】

チェック

1. 作業管理者を決めること。	
2. 作業に適した健康人であること。	
3. 取扱説明書をよく読み、理解していること。	
4. 使用目的が本機の要求目的と合致していること。	
5. 不当な改造をしないこと。	

【作業について】

チェック

1. 安全ラベルの注意事項を守ること。	
2. 作業場所の明るさに注意をはらうこと。	
3. アースコードを必ず接続すること。	
4. コンセントにアース端子がない場合は炭素接地棒を使用してアースすること。 この場合のアース工事は電気工事に依頼すること。	
5. アースコードはガス管・水道管・避雷針などには絶対接続しないこと。	
6. 電源盤のコンセントは漏電ブレーカ付のコンセントを使用すること。	
7. 電源は必ず交流100Vを使用すること。直流100V（発電機など）での使用はしないこと。	
8. 電源コードを延長する場合は、オス・メスの防水コネクタを使用すること。 また、タコ足配線はしないこと。	
9. モータの周辺に燃えやすいものを置かないこと。	
10. カバーを外したままでは絶対にスイッチを入れないこと。	
11. スイッチを入れるときは周囲の人に合図をし、安全を確認すること。	
12. 運転中は作業員や補助者以外、周囲に人を近づけないこと。	
13. 作業するときは絶対に手袋は着用しないこと。	
14. 脱水槽の回転中は絶対に手をいれないこと。	
15. ごみなどを取除くときは必ずスイッチを切り、差込みプラグを抜くこと。	
16. 運転中に異常が発生したときはすぐにスイッチを切り、上カバーを開きブレーキを作動させて、脱水槽の回転を停止させること。	
17. 機械から離れるときには、必ずスイッチを切り、差込みプラグを抜くこと。	

【点検・格納について】

チェック

1. 点検・調整はスイッチを切り、差込みプラグを抜いてから行なうこと。	
2. プラグやコードが損傷したら、すぐに交換すること。	
3. モータや電装部品には水をかけないこと。	
4. 脱水室内に大量の水を入れないこと。	

安全確認一覧表

【基本事項】

1. 作業管理者を決めること。
2. 作業に適した健康人であること。
3. 取扱説明書をよく読み、理解していること。
4. 使用目的が本機の要求目的と合致していること。
5. 不当な改造をしないこと。

【作業について】

1. 安全ラベルの注意事項を守ること。
2. 作業場所の明るさに注意を払うこと。
3. アースコードを必ず接続すること。
4. コンセントにアース端子がない場合は炭素接地棒を使用してアースすること。 この場合のアース工事は電気工事店に依頼すること。
5. アースコードはガス管・水道管・避雷針などには絶対接続しないこと。
6. 電源盤のコンセントは漏電ブレーカ付のコンセントを使用すること。
7. 電源は必ず交流100Vを使用すること。直流100V(発電機など)での使用はしないこと。
8. 電源コードを延長する場合は、オス・メスの防水コネクタを使用すること。 また、タコ足配線はしないこと。
9. モータの周辺に燃えやすいものを置かないこと。
10. カバーを外したままでは絶対にスイッチを入れないこと。
11. スイッチを入れるときは周囲の人に合図をし、安全を確認すること。
12. 運転中は作業や補助者以外、周囲に人を近づけないこと。
13. 作業するときは絶対に手袋は着用しないこと。
14. 脱水槽の回転中は絶対に手をいれないこと。
15. ごみなどを取除くときは必ずスイッチを切り、差込みプラグを抜くこと。
16. 運転中に異常が発生したときはすぐにスイッチを切り、上カバーを開き ブレーキを作動させて、脱水槽の回転を停止させること。
17. 機械から離れるときには、必ずスイッチを切り、差込みプラグを抜くこと。

【点検・格納について】

1. 点検・調整はスイッチを切り、差込みプラグを抜いてから行なうこと。
2. プラグやコードが損傷したら、すぐに交換すること。
3. モータや電装部品には水をかけないこと。
4. 脱水室内に大量の水を入れないこと。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求め下さい。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正オプションを使いましょう

純正オプションは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。



株式会社 齋藤農機製作所

- 本社・工場 〒998-0832 山形県酒田市両羽町332番地
TEL0234(23)1511(代) ファクシミリ0234(26)4161
- 北海道工場 〒079-0181 北海道岩見沢市岡山町18番地
TEL0126(24)5401(代) ファクシミリ0126(24)5402
- 九州営業所 〒861-8039 熊本県熊本市東区長嶺南1丁目1番10号
TEL096(384)6865(代) ファクシミリ096(384)6864

品番 13113-3121-1